

# 西来寺報

二〇一四年 夏  
第十四号

## 中庭の整備

樹々の緑も濃さを増すところになりましたが、皆さんますますご清栄のことと存じます。お寺の方でも、これからお盆の季節をむかえいろいろと準備をしているところです。

さて、今回はお寺の中庭の整備についてお話し申し上げます。中庭の植木は毎年手入れをしています。今年はお話申し上げました。中庭の池の周りの石を積み替え、池の底に溜まっていた泥をかき出して、久しぶりに池をきれいな状態に致しました。今年の夏には間に合いませんでしたが、来年には池の中に蓮を植えようと思っております。(蓮根の植え込みには2月から3月が適していますのでもう少ししばらくお待ちください)きっと来年には美しい蓮の花が咲いていることでしょう。仏教では蓮の花が尊いものとして

扱われており、出家前のお釈迦様の宮殿の池にも色とりどりの美しい蓮の花が咲いていたそうです。

また今度、蓮の花が咲きましたら、そここのところをお話したいと思っております。



## 真宗のお盆、切子灯籠

お盆には灯籠や提灯を出しますが、真宗では切子灯籠を出すのが正式です。

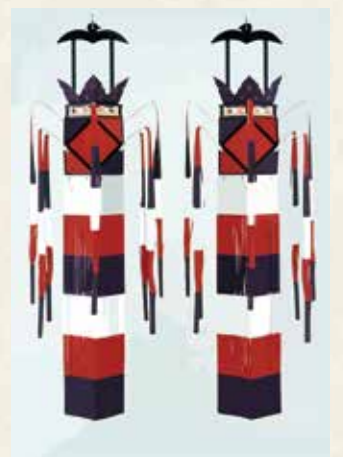
ちよつと変わった形をしていて、白と赤と濃い紺からなっており、つべんには鳥を模したものが有り、つぎには角を取った切籠が有り、細長い紙がたなびきます。

何故こんな形になっているかという諸説ありますが、有名な説がふたつあります。一つは七夕で使われていたものが流用されたとの説。もう一つは倒懸(とうけん)です。

倒懸とは逆さに掛けるとの意味で、女性が逆さまに掛けられている姿だということです。この話は『お盆の始まり』に遡ります。

今から約2500年前にお釈迦さま(ゴータマ・ブツダ)によって仏教はおこりました。仏説孟蘭盆経というお経によれば、お釈迦様のお弟子さんに目連(モツガラナ)という神通第一と言われた人がいます。目連のお母さんが亡くなり、目連がお母さんの死後を神通力で見たところお母さんが餓鬼道で逆さ吊りにされて苦しむ姿が見えました。

目連は母を救うにはどうしたら良いかとお釈迦さまに尋ねたところ、「雨期安居が終わった僧に種々の食



を供養しなさい」と言われました。そこで木蓮がお釈迦様に言われたとおりにしたところ、その功德によってお母さんが救われたということ。そしてその日が7月15日と言われています。ちよつと恐ろしいようなお話ですが、息子の母に対する愛情が2500年の時を経て伝わってくるようです。

## 2014年のお盆日程

### 新盆 7月8日

新盆経。当西来寺で過去1年間に亡くなられた方の家族を集めて法要をします。(該当の方にはご案内差し上げています)

### お盆 7月13日～7月16日

東京地方、横須賀市中心部。

### 旧盆 8月13日～8月16日

月遅れのお盆。葉山、鎌倉方面 全国的にはこちらの方が多い。

### 西来寺同朋会

毎月28日 午後1時30分から  
お茶代 200円

誰にでも参加していただける  
仏教のお勉強会です

※初めて参加される方は、前日までにご連絡ください。また、都合により日時が変わる場合があります。(046・822・1020)

### 西来寺の同朋会に参加してきました

「お経は死んだ人のために唱えるものというイメージがありますが、はたしてそうなのでしょうか。」  
住職が問いかけます。



今日の参加者は17名、私のように参加は初めてという方から、ベテランさんまで、いらつしやいました。

「ねこもしやくしも」「おしゃかになる」など、日頃使う言葉から仏教を理解したり、ブツダの生涯の出来事から、現代の行事の成り立ちを理解したり、お話のたとえが身近で解りやすいため「なるほど!」「そうなのか!」という発見がいっぱいです。

今期の教本は『ブツダと親鸞』。とても解りやすくかかれていた本だけど、やっぱり難しい。住職のお話の後、みんなで音読することで、お話を文章のつじつまが合つて理解が深まります。



法輪のマークについての説明の中で、実際に法輪のマークのついた袈裟を手にとらせていただきました。軸が8本あるのはゴータマ・ブツダの生涯「八相」をあらわしています。実際に手にとつてみると記憶にもしつかり残ります。

「すばらしい充実の勉強の時間を過ごしたぞ!」と思いきや、参加している方たちはもつと自然体で同朋会の時間を過ごされているみたいです。

20年来の参加者の男性に聞けば

「あんまり考えちゃいけないね。お経は音楽みたいに歌をうたうように唱えてるよ。僕たちが子どものころはお寺は遊び場だった。だからお寺に来るのは特別なことじゃない」と語ってくださいました。

また、女性の参加者の方は「お勉強するとか構えて参加することはないですよ。難しい話は苦手。住職

はやさしい言葉でみんなが解るように説明してくれるから面白いよね」と笑顔で話してくださいました。

「仏教やお経は自分の『生きる』に応えてくれるものなのかもしれないな。」などと、難しく考えてしまう私はみなさんに比べたらまだまだ未熟なんだなと思うばかりでした。

(野木村)

### 略肩衣をお持ちの方へ

西来寺では以前、門信徒の皆さんに、略肩衣(門徒式章)をお配りさせて頂きました。略肩衣とは、りゃくかたぎぬと読み、浄土真宗大谷派の門信徒が、仏前における礼装として首から下げて着用する法具です。仏事や法事、お寺での行事などの時に身につけていただくもので、お盆のお参りの際などにご着用ください。



お仏壇の引出しに  
眠っていませんか?